

株式会社リバーズ及び株式会社同仁グループとの 新たな歯髄幹細胞事業体制の構築について Q&A

2020年11月13日



注意事項

この資料は株式会社ジーンテクノサイエンス（以下、当社という）をご理解いただくために作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

この資料に含まれている今後の戦略・計画、将来の見通し及びその他将来の事象等に関する記載には、本資料の発表時点において合理的に入手可能な情報に基づく当社の仮定、見込み等が含まれます。そのため、実際の業績、開発進捗等は、今後の研究開発の成否や将来における当局の対応、事業パートナーの状況等、現時点では不明又は未確定な要因によって、本資料の記載とは異なる結果となる可能性があります。

【ご質問】

- 2019年4月セルテクノロジーを、GTSの普通株式725万株（発行済み株式数の37.3%）の新株発行により、株式交換で完全子会社化しました。その後、のれんの減損損失処理により約60億円の特別損失が発生し、そのセルテクノロジー全発行済株式を僅か1年程で譲渡するという事は、当初の方針が間違っていたということでしょうか。セルテクノロジーの買収効果が当初の見立て通りではなく、早めに方針転換をしたということでしょうか。
- セルテクノロジーの株式譲渡先が同仁グループからリバースに変更されたのは、どういうシナジーを見込んでいるのか、しっかりと説明して欲しい。

【回答】

2020年7月13日に当社ウェブサイトに掲載しました回答のとおり、セルテクノロジーの買収は、歯髄幹細胞のプラットフォーム（細胞リソース、提携企業、細胞培養技術）を獲得し、これを基に再生医療分野の医薬品研究開発を進めることを主な目的としたものです。現在、係る事業はGTSに譲渡されておりますので、当初の買収方針に大きな影響はございません。

一方で、歯髄細胞バンク及び培養上清事業については、当該事業または類似事業にて豊富な経験及びネットワークを保有するリバース及び同仁グループと協業体制を構築することで、当社単独で行うよりも遥かに価値を向上できると考えております。3者で協議した結果、株式譲渡先として当該事業の経験・ノウハウが豊富なリバースが引受先として適切であるとの結論に至ったため、譲渡先を変更いたしました。この結果、当初構想していた同仁グループとの連携体制はリバースを加えることでスライド4でお示ししているとおり、より強固な内容となっており、将来の当該事業の価値向上に貢献するものと考えております。

※ご参考 2020年7月13日「同仁グループとの連携強化に関するご質問について」

https://www.g-gts.com/Portals/0/resources/pdf/jp/ir_topics/2020/other/20200713_01.pdf?TabModule550=0

1 ・提携による経営資源の集中



・中長期的なライセンス収入

・研究開発の加速
・企業、アカデミアとの事業提携促進

3

・歯髄幹細胞の認知度向上
・歯髄細胞バンク&培養上清の利用者増加

2

・臨床開発の知見を蓄積
・対象疾患の拡大

好循環

リバース
同仁

歯髄細胞バンク
(自家歯髄細胞保管サービス)

歯髄幹細胞由来培養上清
(美容クリニック、化粧品原料等)

拡大運営
事業ノウハウ
ネットワーク



+a